

ポスター報告 30

三島 亜紀子 ナシ

#報告題目 ケアを支えたスピリチュアリティ

#報告キーワード スピリチュアリティ ケア 在来知

#報告要旨

1999年のWHO総会で、肉体的・精神的・社会的に加えて「霊的」を加えた新たな健康の定義が提案された（審議には至っていない）。また阪神淡路大震災や東日本大震災を機に、グリーンケアやスピリチュアリティを重視したケアに注目が集まる。こうした流れを受け、ケアにまつわるスピリチュアルの観点からの実践や研究が活発になっていった。スピリチュアルケア、「死の不安や恐怖」「人生の不条理」といったスピリチュアルペインなど、医療や看護、社会福祉の領域を中心に学際的に関心を集めている。木原活信はカンダを引用しつつ（Canda & Furman, 1999:37）、スピリチュアリティを宗教よりももっと包括的なものとして捉えた（木原 2016 : 33）。

本報告では、これらの研究を踏まえつつ、専門職でないケアラー（家族や周囲の人々）側のスピリチュアリティに注目する。

日本の伝統的な社会では、障害者をケアする動機づけとして、スピリチュアルな民俗社会の信仰体系の存在感は大きかった。たとえば、瞽女の一行は寄る先々で歓迎された（マレビット信仰）。彼女たちは神そのものであり、安産や子育て、治病、養蚕・農業にご利益があると考えられた。芸はもちろん、彼女たちの使った三味線の弦までも、人々は神聖視した。そうしたスピリチュアルな思考があっこそ、瞽女は祝儀（金品）を受け取り、生をつなぐことができた。これは過去の相互扶助の一端を担う在来知であったといえる。

日本には祖先崇拜の慣習があったが、先祖が子孫を祟ることがあった。日本では障害者への適切なケアを怠った子孫が祟られるというパターンもあり、ケアへの動機づけの一つであったと考えられる。こうしたことは、祖先崇拜がある他の国にはあまり見られなかった。

一方でスピリチュアリティは、障害者にとって大きな社会的障壁でもあった。最も影響力あったものの一つは、因果応報であろう。この思考回路では、障害者の存在は、「一家

の名誉を傷つける」、「恥」とされる。なぜなら、障害者のもつ異形の姿は、その家の誰かの罪業または前世の不徳を世間にアピールするものだからだ。このため、地域住民の目にふれないよう、障害者は家のなかに隠されることが多かった（生瀬 1986：35）。こうした因果応報や病や障害をケガレとみるような考えは、仏教的な宿業観と結びつき、10世紀から11世紀に定着したと指摘される（赤坂 2002）。

土屋葉は、「障害者の母親」は「健常の子供として産んであげられなかった」という罪悪感をもとに、障害児の介助を「当然のものとして、あるいはジェンダー役割として」引き受けていくと指摘した（土屋 2002：175）。この現代を生きる人から紡ぎ出された言葉にも何らかのスピリチュアルな思考の影響があると考えられないだろうか。

花田春兆は1981年の世界障害者年を「黒船」と例えた。確かに、この頃には障害を前世や過去の罪の報いとするような考えは、迷信・俗信とみなされるようになっていた。とはいえ、新たな迷信も生んだように思える。たとえば、芝正夫らの『福子の伝承』（1983）という本は、「昔から日本人は知的障害者を『福子』『福虫』などと呼んで大切にす文化があった」という新たな迷信を生んだ。この迷信は、過去の日本の村落共同体から障害者を抹殺し、追い出してきたことを包み隠す。その一方、「お前が一家の不幸を背負っているので、わが家は幸福に暮らせる」などの信仰は残り、ケアラーへのスピリチュアルケアになったといえる（谷口 2005）。

本研究は日本社会福祉学会研究倫理指針に基づく。

赤坂憲雄（2002）『境界の発生』講談社学術文庫

Canda, E. R., & Furman, L. D. （1999） *Spiritual Diversity in Social Work Practice: The Heart of Helping: the Heart of Helping*, Oxford University Press.

木原活信（2016）「社会福祉におけるスピリチュアリティ：宗教と社会福祉の対話」『基督教研究』78（1）17-41

三島亜紀子（2019 予定）『マンガで考える 障害と社会の壁：帰ってきた妖怪バリアー』生活書房

生瀬克己（1986）「障害者に対する差別語の性格とその背景について」生瀬克己編『障害者と差別語』明石書店 3-79.

大野智也・芝正夫（1983）『福子の伝承：民俗と地域福祉の接点から』堺屋図書

谷口明広（2005）『障害を持つ人たちの自立生活とケアマネジメント』ミネルヴァ書房.

土屋葉（2002）『障害者家族を生きる』勁草書房

吉田禎吾（1972）『日本の憑きもの：社会人類学的考察』中公新書